

## 令和元年度 長寿科学研究開発事業における

### 事後評価の結果について

#### 【事業概要】

本事業では、高齢者に特徴的な疾病・病態等に着目し、高齢者の介護予防や要介護度の重症化予防、健康保持などに向け、診断・治療、介入プログラムや標準的ケアの確立に向けた研究を推進している。

#### 【評価方法】

「長寿・障害総合研究事業課題評価委員会設置要綱」及び「長寿・障害総合研究事業研究開発課題評価実施要項」に基づき、書面評価及びヒアリング評価を行った。

#### 【評価結果】

4 課題について事後評価を行った。

##### (事後評価対象課題 1)

課題名：高齢者の誤嚥性肺炎等の予防・早期発見のための研究

研究期間：H29～R1

代表者氏名：海老原 孝枝

所属・役職：杏林大学 医学部高齢医学 准教授

評価結果：良い

評価コメント：

高齢者の呼吸筋や栄養等の改善が、高齢者肺炎の新規治療戦略につながる可能性として示唆されており、総合的に評価できる。咽頭機能低下、不顕性誤嚥、誤嚥性肺炎、呼吸・嚥下サルコペニア、摂食嚥下障害、低栄養・免疫能低下のリスクフローが捉えられていて、新しい戦略が整った。

##### (事後評価対象課題 2)

課題名：高齢者の自立度を測定する効果的調査票の開発と検証

研究期間：H29～R1

代表者氏名：吉村 典子

所属・役職：東京大学 医学部附属病院 22世紀医療センター 特任教授

評価結果：

評価コメント：やや良い

高齢者の自立の本質に迫る検討が行われ、自立度を多角的に評価する調査票が作成された。今後の医療福祉分野の進展に資することが期待できる。

(事後評価対象課題 3)

課題名：EBMgt の確立をめざした医療機能を有する介護保険施設の評価指標に関する研究  
開発

研究期間：H30～R1

代表者氏名：黒木 淳

所属・役職：横浜市立大学 大学院国際マネジメント研究科 准教授

評価結果：良い

評価コメント：

社会的ニーズに対応した研究である。開始から1年強の期間内の成果であることを勘案し、今後に期待したい。

(事後評価対象課題 4)

課題名：服薬管理支援システムの実現を目指した卓上ロボットによる服薬動作認識

研究期間：H30～R1

代表者氏名：鈴木 拓央

所属・役職：愛知県立大学 情報科学部 准教授

評価結果：やや良い

評価コメント：

服薬に必要な基本動作を認識する基本的な技術が開発できた。服薬確認の他にも、リハビリテーションなどの医療分野の進展にも寄与しうる。

#### 【事後評価委員会日程】

(書面審査) 令和元年11月13日(水)～令和元年11月22日(金)

(ヒアリング審査) 令和元年12月4日(水)

#### 【評価項目】

- ①研究開発達成状況
- ②研究開発成果
- ③実施体制
- ④今後の見通し

⑤事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

⑥総合評価

【課題評価委員】

氏名	所属・職名
飯島 節	筑波大学 名誉教授
小久保 学	国立長寿医療研究センター 動脈硬化症科医長
玉腰 暁子	北海道大学 公衆衛生学 教授
徳田 治彦	国立長寿医療研究センター 臨床検査部長
中村 利孝◎	公益財団法人 骨粗鬆症財団 副理事長
吉村 健清	産業医科大学 名誉教授
井上 智貴	清光会 介護老人保健施設いずみ 常務理事 施設長
永井 久美子	杏林大学医学部高齢医学教室 実験助手
田高 悦子	横浜市立大学 大学院医学研究科地域看護学分野 教授

◎委員長